

# 大きな木のあるお医者さんところチャイルドクリニック

## 子どもの言葉の発達についてお話しします。



### ●はじめに

言葉は気持ちや考えを表現するコミュニケーションの手段で、毎日の生活をしていく上で、そして社会の中で適応して生きていくために、なくてはならないものです。言葉の発達には、運動機能認知機能、感覚機能の発達が必要で、親、先生、友だちとの関わりを通して言葉を習得していくこととなります。

### ●言葉の発達について

生後2カ月頃より、機嫌のよい時にアー、ウーなどの声が出るようになり、4〜8カ月には意味のない言葉として喃語が出現します。10カ月頃から指差しの理解が始まり、1歳〜1歳半には自分から指差しができるようになります。1歳〜1歳半頃より有意義になります。1歳〜1歳半頃より有意義が始め、1歳半〜3歳にかけて言葉の数が増加し、二語文、多語文、助詞が言えるようになります。言葉の遅れの徴候として、1歳で喃語がない、1歳6カ月で有意義語が1〜2語以下、依頼文の理解ができない、3歳で2語文が

### ●言葉の獲得のために

生活の流れ、動作に合わせて言葉を使うようにし、子どもの行動や気持ちを言語化するようにしましょう。子どもの興味を引きつけて、ゆっくり、はっきりと話しかけます。ブックブック、ゴシゴシなどの擬音語を使うようにして、発音の矯正は言葉の数が増えてからにします。ごっこ遊びや模倣を誘発する語りかけを取り入れ、絵カード、ヒント、選択肢を使うと有効です。テレビやビデオは情報が二方向になりやすいので、時間を決めて親御さんと一緒に視聴し、後で内容について話し合うのがよいと思われま

### ●読書の効用

読書により思考力、想像力が高まり、情緒が豊かになります。生き方や考え方を見直す機会も与えられます。幼少時期からの絵本の読み聞かせは、とても大切で、言葉の発達が早くなり、

表現力も豊かになります。また、親子の絆のつにもなり、読書好きにつながります。読書は生活習慣のよいなものです。好きな本から読ませる、達成感を持たせるように読んだ本を記録する、親も読書の習慣を持つようにするなど、心をかけるとういでしょう。

### ●音読と作文について

音読は言語感覚や言語表現力を養うのに有用で、内容把握や黙読力の発達につながります。作文は国語力や知能の発達に大切です。手紙や日記の習慣を持ち、題材に対するメモをもとに文章を作成する力をつけていきましょう。

### ●おわりに

幼少時期より社会性を養い、コミュニケーションの機会を増やすために、サークル、児童館、保育園など、言葉のやりとりの多い環境が大切です。言葉の遅れには、発達障害、知的障害、難聴などが隠れていることもありま



野村 真二院長

平成22年9月に小児科開業、平成23年4月に病児保育室を開設。未熟児新生児医療の経験を生かして、心をこめて診療、子育て支援を行っています。

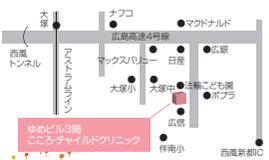


ココロ・チャイルド・クリニック  
Cocoro child clinic  
4階の病児保育室ちゅんちゅんもご利用下さい  
お問い合わせはtel.082-848-6619まで



DATA 広島市安佐南区伴南  
1丁目5-18-8-301  
西風新都ゆめビル  
tel.082-849-5519

ACCESS 広電バス「ココロ産業団地」  
「ココロ西公園」行き  
「ココロ入り口」下車



●診療日・時間

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
14:00~18:00	○	○	○	○	○	△

14:00~15:00に乳児健診、予防接種を行っています。  
△17:00まで【休診日】日曜・祝日

